



真新しい制服に身を包み入学式に臨むしまなみ高校の新入生。8日午後、今治市伯方町有津、撮影・石田一真

県立再編で 5高校誕生 3校で開校式

県教育委員会の県立学校振興計画に基づく統合再編で、8日は西条市の3校を再編して新設した「東予総合」と「小松」、今治市島しょ部の2つの分校を統合した「しまなみ」で開校式があり、生徒や教職員は希望を胸に新たな歴史の一步を踏み出した。

振興計画は2023年3月に策定。全日制55校を45校に統合・再編するのが柱で、計画期間は10年。26年度は前計画（23～27年度）のヤマ場に当たり、全日制は10校が募集を停止する一方で予総合、小松、しまなみ、八幡浜（八幡浜・八幡浜工業・川之石が統合）の4校が誕生。定時制は通信制併設の北条清新（北条と松山東通信制の再編）がスタートする。

振興計画とは別に、小中高の一貫校として松山城北特別支援学校も10日に開校する。

東予総合は総合学科にアグリデザイン科、機械電気科など四つの専門学科を併設し、小松は普通科に加え、情報通信技術（ICT）を学ぶ情報科学科を県立高で初めて設置。しまなみは大三島と伯方島にあった分校舎を生かしたキャンパス制を導入し、総合学科を設けた。113面に続く

⑤東予総合高1期生173人を代表して宣誓する長谷部凜さん＝8日午後、西条市周布⑥真剣な表情で開校式に臨む小松高の新入生＝8日午後、西条市小松町新屋敷



地元資源を活用し探究

東予総合

西条市内の東予、小松、丹原の3高校の再編で誕生した東予総合高（同市周布）では、真新しい制服に身を包んだ1期生173人が明朗・協調・探究の校訓の下で、地域の未来を担う人材になることを誓った。

同校は計五つの学科を併設し、地元資源を活用した探究活動などを通して、地域の発展に貢献する人材の育成を目指す。校章は地元の周桑地域で盛んだった養蚕業にちなみ桑と繭をあしらったデザインを採用。榎垣知美校長は「絹糸の織物のように、学科それぞれが色彩を際立たせながら、人を支え豊かな生活を彩る人材に成長してほしい」と式辞を述べた。

生徒代表で宣誓した総合学科の長谷部凜さん（15）は「将来は保育士を目指している。学業と部活を両立していろいろなことを学んでいきたい」と目を輝かせた。

再編対象となった東予、小松、丹原の3高校は昨年度までに入学した2、3年生がそれぞれ在籍し、2027年度末まで存続する。（清家康尊）

船出の春

1面から続く

東予3高

OB秋川さん校歌披露

小松

新たに開校した小松高校（西条市新屋敷）には、1期生119人が入学した。情報通信技術（ICT）について幅広く学ぶ情報科学科と、教員養成など3コースがある普通科に分かれ、専門的な知識や技術を身に付ける。

開校式では、テノール歌手で再編前の小松高OBの秋川雅史さんが、自ら作曲した校歌を披露。石鎚山など自然に囲まれた環境で学べるのが魅力とし「新校での生活を誇りに思い、新しいスタートを楽しんでほしい」とエールを送った。

普通科の生徒は、2年次に地域課題の解決に取り組む「社会共創」、大学進学を目指す「文理探究」、「教員養成」の3コースを選択する。普通科の野村悠真さん（15）は「文武両道の生活を送り、将来は教員になってバレーボールの指導をしたい」と力を込めた。

（伊藤義樹）

初のキャンパス制採用 しまなみ

今治市島しょ部の今治西高校伯方分校と今治北高大三島分校の統合により開校したしまなみ高では、1期生40人が瀬戸内の穏やかな学びでの生活をスタートさせた。

伯方キャンパス（同市伯方町有津）で開校式があり、県教育委員会の黒田敬副教育長が開校を宣言、岡本淳校長に校旗を手渡した。開校式に続く入学式で、岡本校長が「地域の担い手とな

るため主体的で積極的な学校生活を期待している」とあいさつ。新入生代表の白石奈々江さん（15）が「1期生としての自覚と誇りを持ち、努力を続ける」と宣誓した。

しまなみ高は県内初のキャンパス制を採用し、1学年の定員は80人。2分校の校舎を生かし、伯方キャンパスで

は「文理探究」と「マリンビジネス」、大三島キャンパス（同市大三島町宮浦）では「総合進学」と「アグリビジネス」の2系列をそれぞれ学ぶ。

統合前に在学していた2、3年生は卒業まで、分校生として旧来のカリキュラムで学習する。

（石田一真）